

檜山 管内	上ノ国 市・町・村
<p>●実践の概要（～社会教育関係団体と協働するための行政のあり方、関わり方～）</p> <p>■町民スポーツフェスティバルの実施に係る運営意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和60年より続く「町民スポーツフェスティバル」の実施。 ・スポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブなどからなる実行委員会での運営。 ・交流の場の創出、健康増進への寄与、官民一体の事業展開。 <p>■対象：全町民（幼児～シニア）（町内会・各団体・仲間同士 etc）</p> <p>■協働内容：「スポーツの町宣言」を実現するため、官民一体となり事業運営を行う。</p>	
<p>●実践に至るまでの経緯・準備したこと</p> <p>■経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長年続く事業によるマンネリ化、及びコロナの影響による中止が続き、実行委員会の温度感低下や行政頼りの「やらされている感」から、主体的に事業運営していく意識への変革。 <p>■準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施における目的、作業内容、成果といったビジョンをイメージできるような説明を心がけ、気持ちを共有することでモチベーションの向上につなげた。 ・他のイベントとの共催を企画し、例年と違った取り組みにすることで、マンネリ感を打開するよう仕向けた。 	
<p>●実践で難しいと思ったこと・困っていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンネリからの脱却は発想力や企画力が必要になるため、そう簡単ではないこと。 ・改善を望む声はあるが、行政頼りの雰囲気は変わらないこと。 ・生活の多様化や、学校行事・団体活動の増加により事業実施日の日程調整がシビアになってきたこと。 	
<p>●改善のアイデア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やりがい」をつくるための事業展開を行政から提案し、主体性を持てるような流れをつくっていく。 ・各団体だけでなく町内会など地域との関わりを増やし、構築した関係性を活かした事業内容にする。（参加者増は実行委員会のモチベーションにつながる） 	
<p>●実践での行政職員の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体とのつなぎ役 ・実行委員会での事務局 	<p>●実践後の対象の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業は中止となったが、各団体が来年度に向けて主体的に実施する術を模索しはじめた。
<p>●実践から導き出された社会教育行政職員の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体や地域との関係構築 ・コーディネート ・実行委員会の準備 ・各関係団体のフォロー 	